

## ご挨拶

大野 雅生\*



KYB技報は、この度、創刊30周年を迎え、第60号の発刊となりました。これはお客様や株主様をはじめとするステークホルダーの方々に対し、当社グループの技術や新製品開発、モノづくりの成果を継続してご紹介し、その進化をお示しすることができたことではないかと思っております。また、昨年は当社の創業者である萱場資郎氏が、当社の前身である萱場発明研究所を創設してから100周年を迎えるという記念すべき年でもありました。

昨今の社会情勢を振り返ってみますと、昨年は元号が平成から令和へ改元し、新たな時代を迎えた一方で、消費税の増税や東日本における台風大雨被害がありました。被災された方々にはお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念しております。また、ラグビーワールドカップでの日本チームの活躍には目を見張るものがあり、今年開催される東京オリンピックに大きな弾みをつけたのではないかと思っております。

当社グループにおいては、昨年の2019年を「KYB再生元年」と位置づけるとともに、経営理念を見直し、再スタートを切りました。これは、我々がお客様や株主様をはじめとするステークホルダーの方々にとって、常にご愛顧をいただける企業集団であり続けることが使命であるためです。

また、今年4月からは新中期経営計画（3年）がスタートしました。従来の評価反省も踏まえ、『**取り戻そう信頼と誇り**』をスローガンと致しました。以下に示します4項目を骨子とし、徹底した「現場主義」と「品質経営」を前提とすることで、新たな時代を切り開いていく所存です。

まず一つ目が、『**信頼回復に向けた取り組み**』です。免震・制振事業や航空事業における不適切問題への対処として、再発防止策の実行および企業集団としての規範意識の更なる浸透を図ってまいります。このためには、当社グループ全体のコンプライアンス強化を

はじめ、ステークホルダーの方々との対話や、ブランド戦略に基づく企業イメージ向上を図ってまいります。

二つ目は、『**収益基盤の向上**』です。グローバル規模での原価低減活動や最適調達、生産性向上を推進することで採算性を向上させていきます。また、更なる品質向上により、お客様に安心してお使いいただける製品をご提供し、結果として事業収益の向上に繋げてまいります。更に、間接部門の生産性向上により、前述した改革を加速させてまいります。

三つ目が、『**経営課題の解決**』です。スリムな企業体質を目指した組織や拠点の再編をはじめ、時代に即したIT戦略の策定、災害ゼロ化、グループ全体での人財育成、財務全般の見直しなど、課題は山積しておりますが、KYBグループの総力を挙げて解決してまいります。

そして、最後の四つ目は、『**イノベーション戦略**』です。革新的な製造ラインを各事業はじめグローバルに展開し、他社を凌駕する競争力を持ったモノづくり企業を目指してまいります。また、将来を見据え、自動運転やEV化、省エネ化に備え、これに関する製品ラインアップを行うとともに、常に一步先を進む企業を目指してまいります。

冒頭、当社の創業者の萱場資郎氏について触れましたが、同氏は次のような言葉を残しております。

『常に世界を見渡せ。進歩に遅れるな。できれば進歩をリードせよ。そして哲学せよ』、『人間すべからく夢を持って。そして敬虔な気持ちで自然に学べ。わからなくなったら謙虚に森羅万象に学べ。自然に教えを乞え』(抜粋)。

我々は同氏のDNAを受け継ぎ、気持ちを新たに、今後も皆様方にとって魅力ある企業集団であり続けたいと願っております。そのためには、当社グループの全従業員が一丸となって独創的で、活気にあふれ、愛情をもって業務に従事することが重要であり、その環境づくりを整えてまいる所存であります。

今後もKYB技報が継続的に発刊され、発展を続けていくことを願い、私のご挨拶とさせていただきます。

\*当社代表取締役社長執行役員